

気候変動影響評価等小委員会（第8回）において提起された課題とその対応について

該当箇所	ご意見	対応方法
共通		
注記	シナリオの濃度のグラフのみ掲載してはどうか。	濃度（排出量）、昇温のグラフ、昇温の表をまとめた資料を作成し、報告書、意見具申のそれぞれの最後に掲載。脚注はそこを引用するように記載を変更。
現在の状況、将来の予測の文献情報	「日本全国」と「全国」、「日本」が混在している。用語の統一を。	「 <u>全国</u> 」に統一。
全体	「降水パターン」という用語が残っている。	「 <u>降水の時空間分布</u> 」と修正。
（意見具申）P9	梅雨期間の変化の参照文献として、「木本 2005」の引用は妥当ではない。	「 <u>Kusunoki et al. (2006), Kitoh and Uchiyama (2006), Hirahara et al. (2012) など</u> 」に変更。
（意見具申）全般	「気候変動による影響の要因」は不要ではないか。	残すこととした。
水環境・水資源		
（報告書）P98 沿岸域及び閉鎖性海域 現在の状況（概要）	「全国 207 地点、0.039℃/年」は 100 年で 3℃ということになるがこれで良いか。	「全国 207 地点の表層海水温データを解析した結果、132 地点で有意な上昇傾向（平均：0.039℃/年、最小：0.001℃/年～最大：0.104℃/年）が報告されている。 <u>なお、この上昇傾向が見られた地点には、人為的な影響を受けた測定点が含まれていることに留意が必要である。</u> 」に修正。
（報告書）P103 水供給（地表水） 重・緊・確の表	「 【森林管理（伐採等）による可能性】 」は「適切な森林管理」程度の表現が適切ではないか。	「 【適切な森林管理】 」に修正。

該当箇所	ご意見	対応方法
<p>(報告書) P106 水供給 (地表水) 将来の予測 (本文)</p>	<p>「森林のもつ洪水緩和と水供給の両機能を総合して、気候条件や流域条件に応じた森林管理方法の選択が必要となる。」は、大洪水の場合には洪水緩和の機能はないため書きぶり要修正。 また、「選択」は「考案」が良いのではないか。</p>	<p>「<u>洪水と水供給を含む水循環に及ぼす森林の影響を、総合的、長期的に考え、気候条件や流域条件に応じて適切に森林を管理することが重要である。</u>」と修正</p>
<p>(報告書) P110 水供給 (地下水) 将来の予測 (概要)</p>	<p>いくつか研究事例はあるため、「研究事例は確認できていない」は書き方を少し変える必要がある。</p>	<p>「気候変動による降水量や降水の時間推移の変化に伴う地下水位の変化については、<u>一部、特定の地域を対象にした研究事例があるが、評価手法の精緻化等の課題がある。</u>」と修正。</p>
<p>(報告書) P114 水需要 将来の予測 (本文)</p>	<p>「さらに河川においては渇水による維持用水の枯渇が想定されるが、これは、自然生態系の損失、内水面漁業への影響 (鮎や鮭の産卵場所の変化等) につながりうる。」の部分は水供給について書かれているように見える。</p>	<p>水供給 (地表水) に「河川では、河川環境や河川管理等に支障が生じないように、渇水時にも維持すべき流量 (維持用水) が定められているが、渇水の深刻化によってこの流量を確保できず維持用水の枯渇が生じれば、自然生態系や水産業、水利用等への影響が生じる。」との表記もあることから、水需要からは削除。</p>
<p>(報告書) P114 水需要 将来の予測 (本文)</p>	<p>工業用水について1～2行触れるべきではないか。</p>	<p>P106 水供給 (地表水) の重大性の評価の根拠に「水道水、農業用水、工業用水等の多くの分野に影響を与える可能性があり、社会経済的影響が大きい。」とあることから、本文 (P105) にも同様に記述。</p>
<p>(報告書) P114 水需要 重大性の評価の根拠</p>	<p>重大性は『特に大きい』とは言えない』となっているが、根拠文章を見ると、「特に大きい」ように感じられる。</p>	<p>「影響の範囲は全国に及ぶ。農業用水、生活用水のいずれにも影響が及ぶことが想定される。特に、大量に水を使用する農作物栽培地域や、公共施設等の確実な水供給を必須とする施設、福祉・医療施設は持続的な脆弱性・曝露の要素となりうる。<u>ただし、それらの影響の程度については現時点で特に大きいと判断される十分な根拠等はない。</u>」に修正。</p>

該当箇所	ご意見	対応方法
自然生態系		
<p>(報告書) P115 冒頭</p>	<p>生態系の保全の重要性が低く評価されていると誤解されかねない。湿地の保全などは今も取り組まれており、生態系サービスの評価なども行われている。もう少し前向きなことを書いてはどうか。</p>	<p>自然生態系分野の冒頭に、 <u>「自然生態系は、人々の暮らしや各種産業の基盤となっており、生態系から人間が得ている恵み、すなわち生態系サービスも含め、その保全は重要である。」</u> <u>本分野における気候変動による影響は、自然生態系そのものに及ぶ影響と生態系サービスに及ぶ影響の二つに大別して捉えることができる。これを踏まえ、本分野における重大性・緊急性・確信度の評価は、「生態系への影響」及び「生態系サービスへの影響（国民生活への影響）」の二つに分けて行っている。</u> <u>気候変動による生態系サービスへの影響については、生態系サービスの研究が最近始まったものであること、定量化の難しい場合があることなどから、総じてまだ既往の研究事例が少なく、現状では評価が難しいという実態がある。しかし、それは、生態系サービスへの影響の重大性が低いということの意味するものではなく、今後、生態系サービスへの影響に関する研究を進めていくことが重要となる。</u> <u>また、自然生態系分野では、影響は早期に発見される場合が多いものの、適応策としてできることが限られており、気候変動そのものを抑止する（緩和）しか方策がないという場合もある。そのような場合、緊急性の評価における「適応の着手・重要な意思決定の必要な時期」の観点で評価を行うことは難しく、「影響の発現時期」の観点のみで評価を行っている。」</u> と記述。</p>
<p>(報告書) P115 冒頭の脚注</p>	<p>「生態系サービス」は脚注などの用語説明が必要。</p>	<p><u>「生態系サービス:食料や水、気候の安定など、多様な生物が関わりあう生態系から、人間が得ることのできる恵み。「国連の主導で行われたミレニアム生態系評価(2005年)」では、食料や水、木材、繊維、医薬品の開発等の資源を提供する「供給サービス」、水質浄化や気候の調節、自然災害の防止や被害の軽減、天敵の存在による病害虫の抑制などの「調整サービス」、精神的・宗教的な価値や自然景観などの審美的な価値、レクリエーションの場の提供などの「文化的サービス」、栄養塩の循環、土壌形成、光合成による酸素の供給などの「基盤サービス」の4つに分類している。」</u>を脚注で記載。</p>

該当箇所	ご意見	対応方法
(報告書) P165 淡水生態系 (河川) 現在の状況 (概要)	「気候変動に伴う変化を探知しにくい」では何の変化が探知しにくいかわからない。	「我が国の河川は取水や流量調節が行われているため気候変動による河川の生態系への影響を検出しにくく、現時点で気候変動の直接的影響を捉えた研究成果は確認できていない。」に修正。
(報告書) P190 海洋生態系 現在の状況 (概要・本文) 将来の予測 (概要・本文)	現在は「親潮域で一次生産力の低下」、将来は「亜寒帯域では一次生産力の増加」とあり矛盾するのではないかと。	「気候変動に伴い、植物プランクトンの現存量に変動が生じる可能性がある。全球では熱帯・亜熱帯海域で低下し、亜寒帯海域では増加すると予測されているが、日本周辺海域については、モデルの信頼性が <u>低く</u> 、 <u>変化予測は現状困難である。</u> 」に修正。
健康		
(報告書) P306 その他 将来の予測 (本文)	花粉症について、わからないのであれば、削除ではなく、「わからない」と記述すべき。 わからないことと、取り上げないことは違う。	本文に「 <u>なお、花粉症への影響については、気候変動とスギなどの花粉飛散量との関係について十分な知見が得られておらず、現時点で評価をすることができない。</u> 」と追記。
(報告書) P341 医療 現在の状況 (概要・本文)	断水になると透析医療にかなり影響があり、そのような具体的な記述があるとよい。	概要を「現時点で、医療産業への影響について、 <u>断水や濁水による人工透析への影響を除き具体的な研究事例は確認できていない。</u> 」 本文を「 <u>自然災害や豪雨による断水、濁水が人工透析に及ぼす影響が報告されている。</u> 」に修正